

# 季節を意識した表現活動についての一考察

## ～保育内容（表現）における取り組み～

A study on Seasonally Conscious Expressive Activities  
Activities of classes in “Expression” on childcare contents

林麻由美（東京福祉大学短期大学部）

Mayumi HAYASHI (Tokyo University of Social Welfare Junior College)

### （要旨）

保育者は子どもにとってのモデルであり、あこがれの存在でありたい。子どもの表現を支える保育者もまた、豊かな表現力を身につけることが大切である。

本論では保育内容「表現」の授業において、「12月」、「1月」、「2月」に焦点を当て、「冬」をテーマにした折り紙を中心とした平面制作を行い、それに伴って、学生達が子どもに向けてのお話やコメントを作り、発表する表現活動を試みた。また、この表現活動についての学生の振り返りの記述を含めて、保育者としての表現について考察した。

### （キーワード）

平面制作、お話作り、季節の制作、保育者の表現、

## 1. はじめに

子どもにとって、保育者は注目の的であり、モデルである。保育現場においては、表現しているのは子ども達だけではなく、保育者もまた表現していると言える。そして保育者自身の表現は子どもたちの表現に大きな影響を与えている。それゆえ、子どもの表現を豊かにするためには保育者自身も豊かな表現力を持つことが求められる。表現が生まれてくるためには、まず心を動かされるような体験を数多く経験し、感覚、感性を豊かにすることが大切である。そして保育者もこの感性を大切にし、常日頃、周囲の環境に積極的に目を向けていこうとする姿勢を備えていくべきであると考えます。

本稿では、保育内容「表現」の授業において、季節

を意識した表現活動として、『冬「12月」「1月」「2月」をテーマとした平面制作』を課題とした。制作後にはその作品についての子どもに向けた「お話」やコメントを考え、クラスメートの前で発表を実施した。さらに、①自分の発表についての感想、②表現力を高めるために日頃からどのような事を心がけたらよいか、の2点についての記述をしてもらい、「学生の作品」、「お話」、「発表」、「振り返り」を通して保育者としての表現を考察していく。

## 2. 保育内容「表現」での授業

T 大学保育児童学部1年生42名を対象に、10月から15回の授業を行った。この度の表現活動はそのうちの3回の授業で行った。（資料1）

## 課題 冬「12月」「1月」「2月」をテーマにした平面制作

折り紙、新聞紙、お菓子の包み紙、その他の素材を使用して、画用紙に制作する。

- 条件： 折り紙での制作物を取り入れる。  
お菓子の包み紙や新聞紙などの素材を取り入れる。  
制作物の裏に①作品のタイトル②作品について子どもに向けた「お話」やコメントを  
考えて、300～400字で記述する。
- 用意するもの： 折り紙、お菓子の包み紙、新聞紙、その他の素材、のり、はさみ、両面テープ、  
セロハンテープなど。
- 授業日程： 第1回 折り紙制作。構想を練る。下書き。  
第2回 制作、「お話」やコメントの記述。  
第3回 クラスメートの前で、制作物とともに、「お話」やコメントを発表する。
- 後日、「自身の発表に対する感想、また自身の表現力をアップさせるためには、  
日常的にどのようなことを意識していけば良いか」を記述する。

(資料1)

### 3. 授業の流れについて

第1回目の授業においては、折り紙を折る活動を実施した。季節に合った物、その月に相応しい折り紙制作を各自行い、折り紙に対する感触を深めた。それと同時に自身が制作を行うテーマを決定し、構想を練り、下書きを描く時間をとった。

第2回の授業では約80分間で制作を行った。その際の条件として、①折り紙の制作物を入れる。②身近な素材、例えば新聞紙やお菓子の包み紙などを用いることとした。

また、子どもに向けた「お話」やコメントを300～400文字で記述したものを作品の裏に添付することを条件とした。

第3回の授業では、学生が一人ずつ前に出て、作品を見せながら発表することを実施した。

その後先に述べた通り、この活動についての振り返りの記述を実施した。

### 4. 学生の取り組みについて

42名の学生の内、12月（クリスマス）をテーマにした者が21名、1月（正月）をテーマにした者は10名、2月（節分）をテーマにした者が3名、冬をテーマにした者が7名、その他1名であった。

制作時間には80分間で仕上げられることを予定していたが、実際のところ時間内に終了できた学生は、約半数であった。今回はあまり急がせず、作品提出の締め切りは3日後とした。

#### (1) 学生の作品

Aさんの作品

タイトル「サンタが街にやってきた」

新聞紙やダンボール、ボタン、ビーズ、フェルトなどの素材を使っている。またサンタクロースとトナカイが動いたり、家の扉が開閉するなどの仕掛けがある。画用紙には絵の具で下地を塗り、変化を出している。(資料2)

(資料2)



Bさんの作品とお話

タイトル「サンタがプレゼントを配る日」

クリスマスを選ば、表情の違う三匹のトナカイを登場させて短いストーリーを考えている。

(資料3)



『サンタさんとトナカイくん3匹は12月24日の夜良い子にプレゼントを配りに出かけます。サンタさんの弟子達もお手伝いで大忙しです。・・・さあ出発です。今年はプレゼントの数が多いので、トナカイくんの1匹は目をまん丸くして驚いています。もう1匹のトナカイくんは雪のため前が見える

か不安そうです。もう1匹はプレゼントを配りたくてウキウキしています。雪だるまちゃんが笑顔で見送りました。『行ってらっしゃい』(資料3)

Cさんの作品と子どもに向けたコメント

タイトル「初夢」

折り紙とちぎり絵で細かい描写をしている。子どもに向けてのコメントは、『・・・お正月に初めてみる夢に富士山と鷹と茄子が出てくると縁起が良いですよ。お正月の歌を歌いましょう。お正月の飾りを作りましょう。』と発表した。(資料4)



Dさんの作品とお話(資料5)

タイトル「七草がゆを作ろう」

『しょうたくんは幼稚園で七草がゆのお話を聞きました。「あのね、お母さん、七草がゆはね、スズシロ、スズナ、ホトケノザ、ゴギョウ、ハコベラ、セリ、ナズナを使うんだよ。」「あら、しょうた、すごいわね。じゃあ今日は七草がゆを作りましょう。1月7日に食べると元気いっぱい友達と遊べるよ・・・それからこの七草がゆは、毎日うんちが出るようにしてくれたり、風邪をひかない元気な体にしてくれるよ。」みんなしょうたくんみたいにお母さんに七草がゆを教えてあげてね。』

## (資料5)



## Eさんの作品とお話 (資料6)

タイトル「年越しバトンタッチ」

今年の干支が次の年の干支にバトンタッチすることで、新しい年を迎えることを表現している。

『12月31日のこと。今年も終わりを迎えようとしています。1年間干支として頑張ってきた犬さんが次の年の猪さんにバトンタッチをする準備をしています・・・除夜の鐘が鳴り始めました。いのししさんの姿がみえました。お正月の準備をして走ってきました。「1年間おつかれさま。あとはまかせて」「ありがとういのししさん。1年間頑張っね」犬さんは、いのししさんにバトンタッチをして走り出しました。さあ、いのしし年の始まりです。いのししさん、頑張ってくださいね。』(資料6)



## (2) 発表終了後の学生の記述から

学生達に発表終了後、①自分の発表についての感想、②自身の総合的な表現力を向上させるために日常的にどのようなことを意識し、心がけていけばよいか、を記述してもらった結果、以下のような感想が挙げられた。

## ① について

- ・人前で発表することに緊張した。
- ・恥ずかしかった。
- ・声が思うようになかった。(多数)
- ・もう少し練習すればよかった。
- ・上手く発表できた。
- ・子どもに分かりやすい言葉で伝えることが大切であると思った。(多数)
- ・子どもに問いかけながら話をすればよいと思った。
- ・身振り、手振りを入れて話をすればもう少しわかりやすく伝えられると思った。(多数)
- ・周りを見ながら話をすることが大切であると思った。(多数)

## ② について

- ・たくさんの人と話す機会を増やす。
- ・日頃から聞き手の目を見て話す。
- ・日頃から人前でハキハキと、堂々と話す。
- ・子どもの歌や季節の歌を聴く、歌う。
- ・子どもがどんな事に興味を持っているか意識する。
- ・子ども達に飽きさせないように工夫する。
- ・季節の変わり目に気付く。
- ・自然の中にあるものを感じる、意識する。
- ・読み聞かせの経験を積む。
- ・いろいろな素材に興味を持つ。
- ・学童保育やボランティアをして子どもと話す機会を作る。
- ・子どもが遊ぶ様子や歌っている様子を見る。
- ・年齢別の子どもの理解度を学んでどれくらいの言葉なら理解できるかを知る必要がある。

## 5. 考察

学生達は今回の取り組みを行うにあたって、日常生活の中で季節感を持ち、季節にちなんだ行事などを積極的に表現しようとしていた。

またその季節感や、季節の行事などを子どもたちにどのように伝えれば良いか、制作やお話作りを通して、それぞれのアイデアを振り絞り作品を完成させている様子が見えた。そして自分の表現方法について振り返った時、またクラスメートの発表を通じて振り返った時、どのような点を意識して表現したら良いかという事に気が付いたことが分かった。

さらに今回の活動を通して、今後学生達が、季節感を感じ、身の回りの素材に目を向け、それらの素材をどのような時に、どのような事に活用できるか、などをより日常的に思い巡らすようになっていくのではないかと考えた。また、制作活動、お話作り、そのお話の中で、「季節の歌」を歌うことを盛り込んでいる学生も数人いた。それは、造形表現に言語表現さらに音楽表現を意識した発表であった。次の授業では早速、発表時に出てきた冬の歌やお正月の歌や、豆まきなどを全員で歌った。お話をする時、身振り、手振りなどの身体表現を入れた方が良いのではないかと感想を述べている学生が多数いたことから、造形表現、言語表現、音楽表現、身体表現を含めた総合的な表現活動を展開することが理想的であると考えた。子どもたちに季節感や季節の行事などを伝えるためには、自分自身も様々な豊かな経験をするのが大切である。

また、学生達の中には、これから子どもの様子をよく観察していくことが大切であると回答している者もいた。子どもがどんな事に心を動かされているかを保育者が受け止めてあげることが最も大切である。

さて、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領における保育内容の5領域では「ねらい」と「内容」が、また「内容の取り扱い」についてもそれぞれ示されている。

今回の表現活動は領域「表現」だけにとどまるだけでなく、保育内容「環境」や「言葉」とも関連があ

ると考える。

保育内容「環境」の「ねらい」は

- (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- (2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、楽しんだり、考えたりし、それを生活にとりいれようとする。
- (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

その12項目の「内容」の中で特に注目するのは、

- ・季節により自然や人間の生活に変化のあることに気づく。(3)
- ・日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。(6)

であり、今回の活動と関係があると考えた。

また、保育内容「言葉」のねらいは

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- (3) 日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生(又は保育士等、保育教諭等)や友達と心を通わせる。

その10項目の「内容」の中で今回の活動に関係する点で特に注目するのは、

- ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。(8)
- ・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き想像をする楽しさを味わう。(9)

である。このように領域「表現」は他の領域とも繋がりがあつたことを認識しておく必要がある。

## 6. まとめ

保育内容(表現)は子どもの様々な表現を理解し、それをどのように支えていくかを考えるとともに保育者の表現についても考えていくことが必要である。この2つの柱を中心に勉強していくことを



学生達に伝えていく必要がある。なぜこの活動をしているのか、何のためにこの活動をしているのかをしっかりと伝え、それが理解される事により、広い領域の一つの切り口からこの保育内容（表現）を捉えることができると考えるが、今年度は学生達にその点を上手く伝えることができなかつたことが反省点である。

今後は、今回の内容を取り入れながら、身体表現、音楽表現も入れて、視野を広げられるような総合的な表現活動を取り入れて、学生達がより意識して表現について考えられるようにしていくとともに、子どもの表現についても、その内容を深く考えられるような授業展開を考えていきたいと考える。

#### 【参考文献】

- 領域「表現」無藤隆監修、浜口順子編者代表 萌文書林（2018）
- 領域「表現」 無藤隆監修、福元真由美編者代表  
萌文書林 （2018）
- 保育内容「表現」入江礼子・榎沢良彦編著 建帛社 （2018）
- 保育内容「言葉」榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社 （2018）
- 保育内容「表現」鈴木みゆき・吉永早苗・志民一成・島田由紀子  
編著 光生館 （2018）
- 文部科学省：『幼稚園教育要領』（2017）
- 内閣府、文部科学省、厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（2017）
- 厚生労働省：『保育所保育指針』（2017）